

# 「生見尾踏切」安全対策ニュース

～ 踏切の安全対策のため「こ線人道橋」を整備します ～ 発行：横浜市道路局

横浜市では、生見尾踏切の安全対策に関する情報提供を行うため、安全対策ニュースを発行しています。

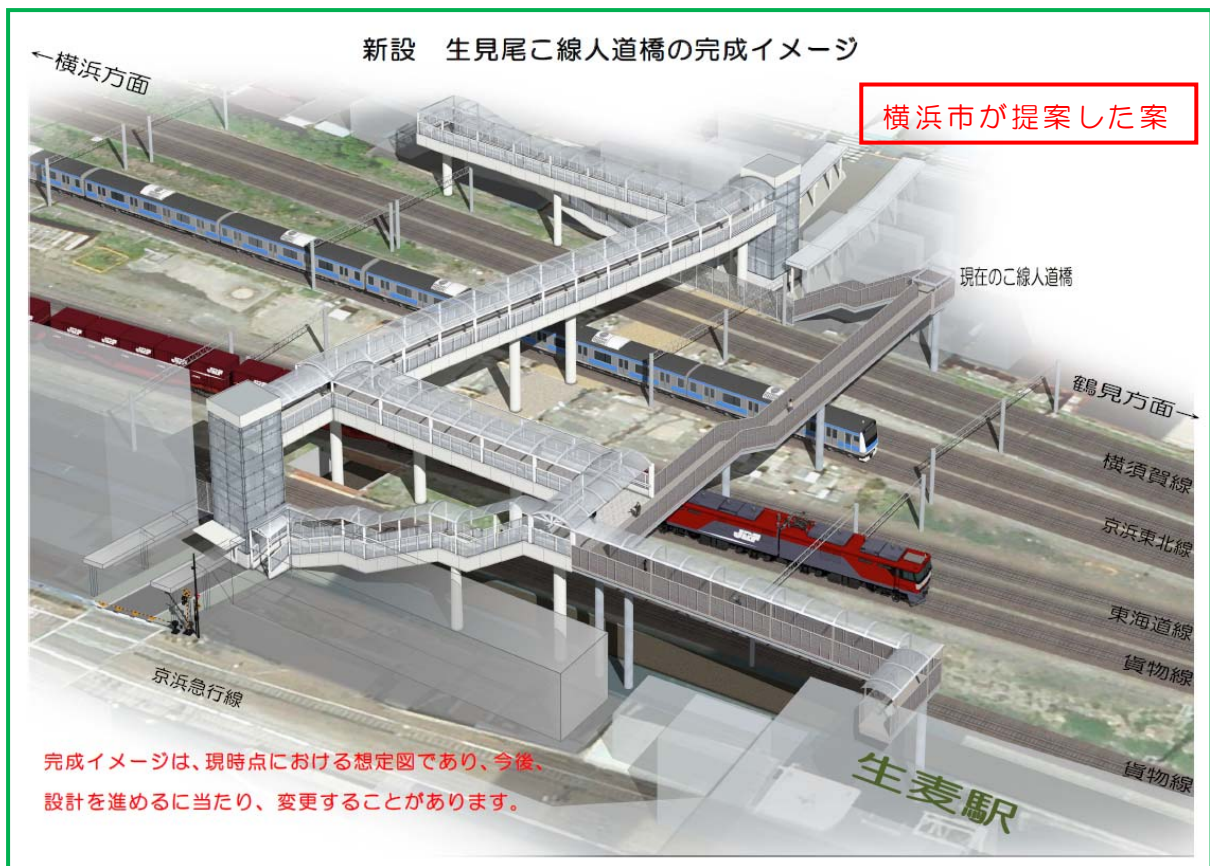
## 現在の検討状況について

生見尾踏切の安全対策につきましては、25 年 8 月に起きたような事故を繰り返さないよう、**早期に安全対策が図れる案**として、現在の踏切上に、「新たな跨線（こせん）人道橋を整備する案」を、昨年 3 月に提示させていただきました。

昨年の 4 月以降、地元の皆様との意見交換の中で、「踏切を閉鎖せずに、新たに跨線人道橋が架けられないか」というような御意見もいただきました。

いただいた御意見につきましては、工期や事業費などの制約もありますが、施工の可能性について鉄道事業者とも調整し、検討してまいります。

検討結果につきましては、意見交換会などで説明させていただきたいと考えております。

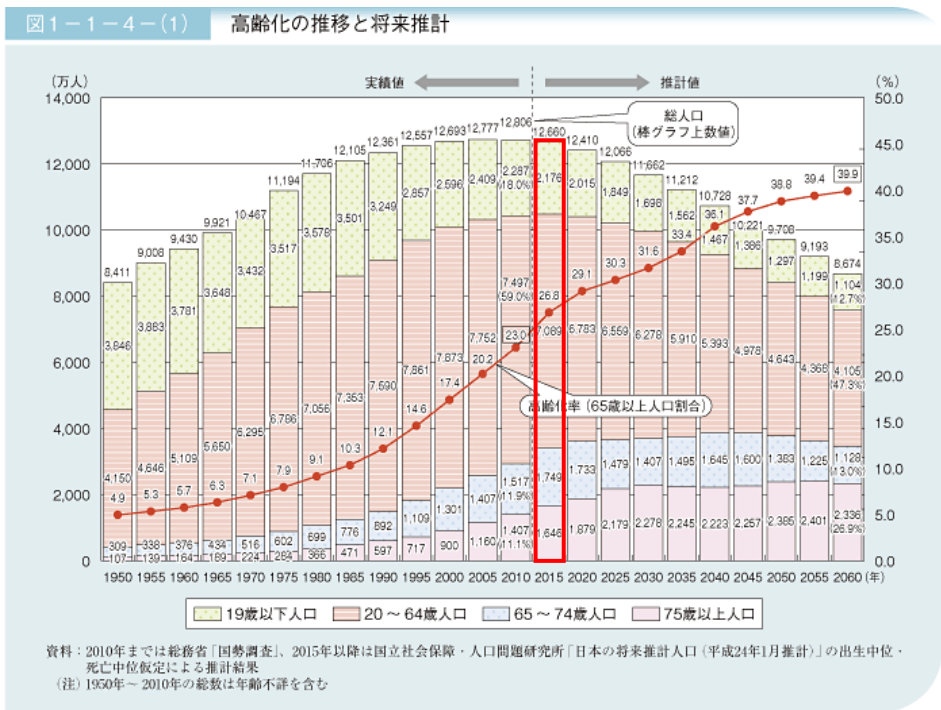


平成 26 年 11 月の意見交換会でいただいた主な御意見と横浜市からの説明

主な御意見	横浜市からの説明
現跨線人道橋の段差部分をスロープ化し、北側にエレベーターを設置してはどうか？	北側のエレベーターと接続する通路用地を買収する必要があることや生麦駅の改修が必要となることが課題としてあります。
鉄道を高架化または地下化すればいいのではないか？	鉄道を高架化または地下化することは、時間と事業費を要するので困難と考えています。
踏切の安全対策のためには、新しい跨線人道橋を造るのがいいのか、踏切番（監視員）をおくのがいいのか、総合的な検討をした結果なのか？	痛ましい事故が二度と起きないように、新たな跨線人道橋を造るのがいいと考え、時間がかからない案を提示しています。
恒久的な安全性の確保を最重視するならば、踏切は閉鎖せざるを得ない。利便性などの問題はあがるが、リスクを取り除くのが重要だと思う。	横浜市としても、恒久的な生見尾踏切の安全対策としては、踏切は無い方がいいと考えています。

踏切閉鎖に関する横浜市の考え

内閣府による人口推計では、65歳以上の高齢化率が、10年後には30.3%、20年後には33.4%になると予測しています。(平成25年度版高齢社会白書)  
 このような高齢化が予測される中、生見尾踏切のように凹凸があり、延長や遮断時間が長い踏切は、将来にわたる安全性の確保ができないため、新たな跨線人道橋を整備し、踏切を閉鎖する必要があると考えています。



御意見、御要望のある方は、下記連絡先にお問い合わせ願います。

横浜市道路局企画課鉄道交差調整担当 〒231-0017 横浜市中区港町 1-1

TEL: 045-671-2792 FAX: 045-651-6527 メール: do-tetsudou-umio@city.yokohama.lg.jp

お問い合わせ時間 9:00～17:00 (土、日、祝日以外)

なお、この資料は「横浜市道路局企画課鉄道交差調整担当」のホームページでも閲覧できます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/rail-cross/20110530-pln-fumikiri5-index.html>